

2021年活動スローガン「^{はばた}輝け 翔け 世界の子も達 未来に向かって」

報 告 2021年8月～10月支援分

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

・有志の方よりカバシア郡の学校にトイレを3基

●その他の寄付

・会員有志の方よりエンゼルホームの講堂のトイレの補修工事

・会員有志の方よりエンゼルホームにパソコン1台

〈フィリピン〉

・9月にフィリピンの「財団法人北ルソン 比日基金」へ今年度奨学金200万円を寄付

〈国内活動〉

●あおぞら食堂「エンゼル」(子ども食堂)への寄付

・賀茂川漁協組合員の方及び有志の方より食材(鮎)

・佐賀県のNPO法人「POSA」の井上望氏より食材

お知らせ

●新型コロナウイルスまん延防止を考慮し、各地でのチャリティバザーやイベント等の開催を中止・延期させていただくことがあります。詳しくは事務所までお問い合わせいただくか、ホームページ上でもご確認いただけます。ご不便おかけしますがご理解いただきますようお願いいたします。

緊急事態宣言が延長となり、各地のチャリティバザーが開催できませんでした。そのため、多くの皆様よりバングラデシュ支援のためご寄付をいただきました。ご協力ありがとうございました。



バングラデシュの子ども達

イベント情報

10月20日(水) 秋のチャリティバザー

場所：本協会ボランティアセンター(伊丹市)

時間：10:00～14:00

※感染症対策として今回は模擬店・休憩スペースはございません。



編集後記

夏のオリンピックでは若い人達の活躍に心が躍りました。「ここへ来るまでに多くの方に支えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。オリンピックに出場できて本当に幸せでした」そう口にする選手のインタビューが印象的でした。試合後に勝敗を越えてお互いを讃えあう選手達の姿が、世界の明るい未来を描いているようでした。

2021年 行事予定

10月現在

10月	19日(火)～25日(月)	ノクシカタ販売	高円寺ギャラリーR	東京都
	20日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
11月	2日(火)	ノクシカタ販売	イオン高砂	高砂市
	9日(火)	チャリティバザー	垂水駅前東広場	神戸市
	20日(土)	チャリティバザー	JR六甲道南公園	神戸市
12月	4日(土)	35周年記念式典	エンゼルホーム	バングラデシュ
	7日(火)	チャリティバザー	イオン高砂	高砂市

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号

01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよりしくお願いします。

会員数：一般会員 642名

DCEF会員 634名

(10月1日現在)

ANGEL NEWS

通巻197号
2021.10

元気になった男の子(2011年)

新型コロナウイルスの影響でバングラデシュに行くことができなくなって1年半が経ちました。その間にも現地からは写真を交えて様々な報告が送られてきています。ある時その写真を見ていましたら、ふと以前スタディツアーでカバシア村にて行われた識字教室の卒業式に参列した後に起こった出来事を思い出しました。

卒業式が終わってみんなが帰った後、ノクシカタ刺しゅうを刺した布を持った母親と4歳くらいの男の子が座っていました。どうしたのだらうと思っていると、現地責任者のバリさんが「この子は黒砂糖を作るためサトウキビを焚いている中へ誤って入ってしまい、大やけどをしたのです。手術をするには8,000タカ(約12,000円) 必要ですが、そのお金がなくて困っているそうです」と話してくれました。その子の下半身は茶色に変色してケロイドになっていました。「この子を助けて欲しい」という母親の強いまなざしがみんなの心に刺さりました。その後宿舎に帰るとツアーの参加者の方から「みんなで助けてあげよう」と声上がり、手持ちのお金を募金してくださいました。集まったお金は17,000タカ(約25,000円)。「これで手術もできるし、薬も買えるわ…よかったね」とみなさんのあたたかい気持ちにとっても感激しました。

3年後再びノクシカタの生産者を訪ねてこの村に行く機会がありました。村に到着して車から降りると、そこに明るい元気な子が立っていました。その子はなんと、あの時やけどをして私達が手術代を出してあげた子どもでした。そばにいたお母さんに写真を撮って欲しいと身振りと言われカメラを向けると、お母さんは子どもを抱きしめて本当に嬉しそうでした。ふとこのお母さんは私達に子どもが元気になったことを伝えて欲しいのだと気付きました。とても感謝しておられるのだと。。。この子はやけどの傷跡を見るたびに多くの人の真心を思い出し、きっと立派に成長していくことでしょう。このように私はバングラデシュに行くたびにいろんな人に出会い、温かい人の心に触れることが出来ます。だからこそそうして支援を長く続けられているのだと思うのです。今、コロナ禍の中で人との距離はとりながらも心は寄り添い助け合っていきたいと思っています。

代表理事 東村 真理子

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

バングラデシュ支援活動とSDGs

昨今耳にすることの多くなった「SDGs」(エス・ディー・ジーズ)。これは2016年から2030年までに、誰ひとり取り残さないことを目指し、先進国と途上国が一丸となって達成すべき世界共通の目標のことです。SDGsは「17の目標」と「169のターゲット(具体目標)」で構成されています。国際エンゼル協会のバングラデシュでの活動は現地のSDGs「17の目標」のうち、主に下記の6つの達成に貢献しています。

1. 貧困をなくそう

全ての活動の根幹となっています。エンゼルホームや識字教室、職業訓練所(TTC)や女性自立センター(WWC)など、自立のために必要な知識や経験、技術を授けることで貧困の連鎖を断ち切れるよう支援しています。



3. すべての人に健康と福祉を

クリニックを開設し、地域の経済的に貧しい人々へ医療を提供しています。またエンゼルホームや識字教室において、保健衛生の知識や衛生的な生活習慣を身に付けることができるよう支援しています。



4. 質の高い教育をみんなに

YURIKOエンゼルスクールやDCEFなど、現地の学生達が質の高い教育を受けられるよう支援を行っています。また教育の機会を奪われた女性達へ識字教室や職業訓練所などを通じて、教育を受ける機会を授けています。



5. ジェンダー平等を実現しよう

貧困問題と合わせて当協会の活動の根幹となっています。イスラムの国々の中では比較的女性の社会進出が進んでいるバングラデシュでも女性問題は多く、活動を通じて直接的に支援するだけでなく、子ども達にも教育を通じてジェンダー平等の理念を伝えています。



6. 安全な水とトイレを世界中に

日本国内にて寄付を募りバングラデシュ農村部の学校にトイレと手洗い用井戸の建設を行っています。農村部ではトイレのない学校や、ただ草木で覆っただけのトイレしかない学校も多く、衛生的でプライバシーの守られたトイレに現地の学生はとても喜んでます。



10. 人や国の不平等をなくそう

エンゼルホームの子ども達やYURIKOエンゼルスクールの学生達には、学校教育だけでなく生活に必要な知識や保健衛生、世界で活躍できるグローバルな視野を持てるよう教えています。



※この他、フィリピンやスリランカ、そして日本のSDGs目標達成に向けても取り組んでいます。

SDGs17の目標とはー

1.貧困をなくそう 2.飢餓をゼロに 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 6.安全な水とトイレを世界中に 7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう 10.人や国の不平等をなくそう 11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任 つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさを守ろう 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう

国内活動報告

～こども食堂～(青少年育成事業) 「あおぞら食堂エンゼル」



昨年6月より本格的に始めました子ども食堂「あおぞら食堂エンゼル」、一時はコロナの影響で中断していましたが、今では多くの方に支えていただき地域のご家族に愛されるこども食堂になりました。これからも安心して食事を提供できるよう取り組んでいきたいと思っています。

1. 開設のきっかけ

いつもバザーでお世話になっている地域の方々へ何か恩返しができないかと考え、子ども達の居場所であったり、地域の方々の交流の場として必要性が叫ばれている子ども食堂を始めることになりました。

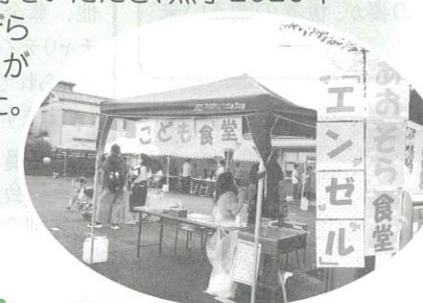
2. プレオープン

昨年3月、突然全国一斉休校となった子ども達へ休校支援としてカレーや焼きそば、豚丼をメニューに子ども食堂を3回行いました。その時からボランティアセンターの広い駐車場を利用して、あおぞらの下、皆で楽しく食事できるよう工夫をしました。



3. 食堂開始

その後開設に向けたくさんの方や公的機関からの寄付をいただき、無事2020年6月より「あおぞら食堂エンゼル」がスタートしました。



4. 一時中断

開始当初は参加者も少なく、どうしたらよいか戸惑うことも多く、その度に担当者で話し合いました。その結果「エンゼらしく楽しい子ども食堂を目指そう」と一致団結し取り組んでいきました。気付けば毎回定員オーバーの大盛況となり、参加されるご家族さんにも「安心して子どもと過ごせる」と喜ばれるようになってきました。しかし新型コロナウイルスの影響で2021年1月、2月と中断せざるを得なくなりました。

5. 再開～現在

その後は対策を強化し、いつでも皆が安心して過ごせる子ども食堂を実施しています。子ども達はお手伝いに来てくれている学生のお兄さんお姉さんと楽しく遊び、お母さん方はお母さん同士で繋がる場として、そしてボランティアさんと参加者が関わる機会もでき、世代を超えた地域ネットワーク作りに役立っています。また、アマゴつかみ取り体験や活魚の解体ショーといった食育につながるイベントや、異文化体験としてサリーの着付けやバングラデシュ料理を出すなど、色々な事を学べる楽しいイベントも行っています。



子ども食堂は2012年ごろより日本中に広がってきました。当初は貧しくて満足な食事がとれない子ども達に安価で家庭的な食事を提供しようと、地域の飲食店や商店街の方が実施されていました。その後、子ども食堂が全国に広がっていく中で「貧困への支援」だけでなく「地域交流拠点」とした役割も担う形へ進化してきました。国際エンゼル協会の実施する「あおぞら食堂エンゼル」も、地域の子も達が安心して楽しく過ごせる場として継続していけたらいいなと思います。これからもどうぞご支援ご協力よろしくお願いします。